

スクールカウンセラーは、何する人ぞ？

東京都スクールカウンセラー（臨床心理士） 金屋光彦

1 増え続けるカウンセラーの学校配置

「スクールカウンセラーは、何をする人ですか？」

今でも、たまにそういう質問を受けることがあります。学校でスクールカウンセラーは何をしているのか、本来何をなすべき人なのか？ 今一度、考えてみたいと思います。

平成18年に、全国の中学校約1万校へのスクールカウンセラーの配置が実現し、今は小学校と高校への配置拡大が進んでいます。

東京都でも2008年から小学校配置が本格的に始まり、都立高校では昨年度からスクールカウンセラーの配置校が、それまでの60校から100校へ一挙に増えました。平成7年に154校の調査委託事業として始まったスクールカウンセラーの学校配置が、短期間にこれほど拡大したのは、それだけスクールカウンセリング業務へのニーズが高く、かつ、そのニーズや期待にスクールカウンセラーが応えてきた実績が評価されたからだといえるでしょう。

2 スクールカウンセリング業務の特徴と使命

いうまでもなく学校は教育の場であり、その主役は先生と児童生徒です。この教育という尊い営みが円滑に行われるために、スクールカウンセラーは臨床心理という専門的立場から介入支援するのですが、あくまでスクールカウンセラーはわき役であり、黒子とってよいでしょう。

学校に相談室やカウンセリングルームはありますが、職員室にいる時も多く、また時には生徒児童の家庭訪問を行うこともあります。相談室での1対1のカウンセリングより、教師とのコンサルテーションの場面の方が多いのが、スクールカウンセリング業務のまず第一の特徴といえるでしょう。

また、学校の相談室は精神科クリニックではありません。よって、学校内の相談室やカウンセリングルームでは心理治療は行わないのが通常です。学校や教育の目的がそうであるように、成長モデルの枠組みで、スクールカウンセリング業務は行われるのです。すなわち、生徒児童が抱える心理的問題が、たとえば現在多く散見される、うつ状態、あるいはパニック障害や対人恐怖といった神経症レベル等であったとしても、あくまで、不登校やいじめ等として表現される学校不適応行動の克服のために心理援助を行うの

が学校臨床の考え方になります。

前出の対人不安や神経症等の症状が、スクールカウンセラーの介入によって軽減したということが、たくさん起こります。それは、心理治療を行った結果ではなく、先生や保護者と協力連携して、子どもたちの十全な学校生活への適応促進を目的としてやった結果といえます。つまり、結果的に心理治療的であったというにすぎないのです。

最近、いじめ自殺が社会問題化しています。われわれスクールカウンセラーにとって、最も避けるべき状態といえます。なぜならば、スクールカウンセラーの最大の使命は、破綻防止にあるからです。自らの命を絶ってしまう自殺。あるいは、他者の命を殺め、自らの社会的生命や連続性を断ち切ってしまう事件。こういった取り返しのつかない事態を未然に防ぐことこそ、スクールカウンセラーに課せられた最も重要な職務といえるでしょう。

3 学校で培うべき最も大切な心

人は外的刺激によって、内的な発達が促されます。学校はさまざまなストレスがかかってくるところです。授業中は静かに集中することを求められ、いろいろなタイプの同級生や先輩たちとの良好な関係維持にも、心を碎かなければなりません。

さらに、どうしても授業がわからない、数学の問題がどうしても解けない、鉄棒の逆上がりが何度やってもできない等、壁にぶつかって大きな欲求不満がかれらを襲います。でも、それらのストレス体験が、結果としてかれらの心の足腰を鍛え、強くしていきます。そうして、いつかできなかった問題が解けた！ 泳げるようになった！ 苦手な先輩や敵だった同級生とも仲良くなれた！ というレベルに達することができます。その時「ほくもやればできるんだ」という職業生活で最も大事な自己効力感を、得ることができるのです。「今日の自分」が「昨日の自分」を超えたこの時こそ、キャリア形成の力が培われ、明るい未来が開けていく時だといってよいでしょう。

そういう心を子どもたち全員が持てるようになるため、先生や保護者の方々と信頼関係を築き連携をとりながら、スクールカウンセラーは、学校の縁の下の力持ちとして日々奮闘し続けるのです。